

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成23年11月24日(2011.11.24)

【公開番号】特開2010-229732(P2010-229732A)

【公開日】平成22年10月14日(2010.10.14)

【年通号数】公開・登録公報2010-041

【出願番号】特願2009-79032(P2009-79032)

【国際特許分類】

E O 4 F 13/08 (2006.01)

E O 4 F 13/21 (2006.01)

【F I】

E O 4 F 13/08 1 0 1 S

E O 4 F 13/08 1 0 1 K

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月7日(2011.10.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

既存壁上に内装ボードを接着した内装壁構造であって、

前記既存壁と前記内装ボードとの間に設けられ、前記既存壁と前記内装ボードとの間のレベル調整を行う少なくとも二つのレベル調整材と、

前記既存壁と前記内装ボードとの間に設けられ、前記既存壁と前記内装ボードとに対向する方向に貫通する接着剤の注入孔を有する軟質ガイド部材と、

前記注入孔に充填され、前記内装ボードを前記既存壁に接着する接着剤と、を備え、

前記軟質ガイド部材は、収縮することで前記既存壁と前記内装ボードとの間のレベル調整が可能となるように収縮可能な弾性体により構成された内装壁構造。

【請求項 2】

前記内装ボードの前記既存壁側の面にアクセサリを取り付けるための補強部材が設けられ、該補強部材と対向する位置に前記軟質ガイド部材を配置したことを特徴とする請求項 1 に記載の内装壁構造。

【請求項 3】

前記内装ボード設置前においては、前記既存壁と前記内装ボードとに対向する方向の前記軟質ガイド部材の厚みが、前記既存壁と前記内装ボードとに対向する方向の前記レベル調整材の厚みよりも厚くなるように構成され、

前記内装ボード設置時に、前記軟質ガイド部材が収縮することで前記既存壁と前記内装ボードとの間のレベル調整を行うことを特徴する請求項 1 または 2 に記載の内装壁構造。

【請求項 4】

前記接着剤は、前記既存壁と前記内装ボードとに対向する方向の前記レベル調整材の厚みよりも厚くなるように、前記注入孔内に高く盛り付けた後で前記内装ボードが配置されたことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の内装壁構造。

【請求項 5】

前記軟質ガイド部材が三次元的に連通した気孔を有する発泡体であることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の内装壁構造。

【請求項 6】

前記軟質ガイド部材が前記レベル調整材よりも多く配置された、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の内装壁構造。

【請求項 7】

前記軟質ガイド部材の設置間隔が、前記内装ボードの中央部よりも周辺部で狭くなるように配置された、請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載の内装壁構造。

【請求項 8】

既存壁に対向する方向に貫通する接着剤の注入孔を有する軟質ガイド部材と、内装ボードの施工位置を調節するための少なくとも二つのレベル調整材と、を既存壁上に固定する工程と、

前記注入孔に接着剤を注入する工程と、

前記内装ボードを前記接着剤を介して前記既存壁に圧着する工程と、を備え、前記軟質ガイド部材は、収縮することで前記既存壁と前記内装ボードとの間のレベル調整が可能のように収縮可能な弾性体により構成された内装壁構造の施工方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の一態様によれば、既存壁上に内装ボードを接着した内装壁構造であって、前記既存壁と前記内装ボードとの間に設けられ、前記既存壁と前記内装ボードとの間のレベル調整を行う少なくとも二つのレベル調整材と、前記既存壁と前記内装ボードとの間に設けられ、前記既存壁と前記内装ボードとに対向する方向に貫通する接着剤の注入孔を有する軟質ガイド部材と、前記注入孔に充填され、前記内装ボードを前記既存壁に接着する接着剤と、を備え、前記軟質ガイド部材は、収縮することで前記既存壁と前記内装ボードとの間のレベル調整が可能のように収縮可能な弾性体により構成された内装壁構造が提供される

。